

道徳の授業について「日ごろ疑問に感じていることや困っていること」をC区立I小学校の先生たちに正直に書いてもらった。以下はそれらを整理し、まとめたものである。 2022/06/08 後藤 忠

課 題	疑問、困っていること	回答・助言
特別支援学級の道徳科指導について	特別支援学級の道徳科指導では、教材選択と授業展開が特に難しく悩んでいる。	<p>特別支援学級での道徳科授業はまだまだ緒についたばかりの段階であり、今から本格的な指導法の研究・開発が始まるころだと言ってよい。</p> <p>そもそもの話だが、道徳科授業は児童の内面的の資質である道徳性を育てるための授業であるから、障害の有無、障害の種類、障害の程度に関わらず、児童の実態を正しく把握（理解）し、その実態に合った指導を行うことが何より大切である。</p> <p>学級の児童の実態に合った教材を選択し、実態に合った授業展開を考え、児童の心に響く授業を工夫して実証的に授業改善を続けていくことが唯一の道である。</p> <p>本屋に並んでいる高価な参考書の中には、「それを読んだらますます分からなくなる」と警告したくなるような実践例が載っているものもあるので、鵜呑みにせず、自分の児童理解を信じて授業改善を続けてほしい。</p>
教材選択について	教材の選択と使用に悩んでいる。教科書には疑問を感じる教材も載っているが、(教科書だから)そうした教材も使わなくてはいけないのか。	<p>児童は道徳科で、ねらいとする道徳的価値の理解に基づき、自己を見つめ、物事を多面的多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を行う。(道徳的価値の理解には価値理解、人間理解、他者理解の3つがある。)</p> <p>このような学習を行うには(自己を見つめるための)鏡が必要である。その鏡となるものが教材である。児童は教材に自己(の心)を映し、自己を見つめる。したがって、教材は道徳科の命といえる。よい教材は児童の心を鮮明に映し出す。</p> <p>なお、教科書の使用義務に関する原則的な考え方については、私のホームページ「後藤忠の心が育つ道徳科授業」の「B 特別の教科 道徳 の基礎基本」に「vol.11 オリジナル年間指導計画作成マニュアル」を載せているので参考にしてほしい。</p>
学習指導過程について	実在の人物を扱った教材を使用する際の留意点を知りたい。	<p>*その人物が「人間としての強さも弱さも兼ね備えた人」として描かれているか。</p> <p>*「導入」は原則として「価値への導入」を行い、その人物などの説明は(展開の前段の)「教材提示」の前に行うとよい。</p>
	特に、展開の後段の指導が難しい。	*展開の後段は、本時の主題に基づき、展開の前段までの学習で深めた道徳的価値の理解（自覚）を基に、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習を行う。したがって、導入から展開の前段までの学

		<p>習が展開の後段での学習を左右する。更に、展開の後段の学習課題(発問)もの設定も重要である。(「A 道徳科学習指導案作成(超)×3 入門」レッスン⑦参照)</p> <p>*展開の後段で行う学習は、その特質上、みんなでワイワイ話し合う活動はあまりなじまない。児童が自己を深く見つめることに集中できる学習活動を工夫することが大切である。</p> <p>*書く活動を取り入れるのは効果的だが、何について書くのか、どのように書くのか、書いたことを児童が後で確かめたり見直したりすることができるか、などの配慮は更に重要である。</p>
	終末の指導の方法をもっと知りたい。	「A 道徳科学習指導案作成(超)×3 入門」レッスン⑨参照
評価について	評価の留意点について教えてほしい。	「A 道徳科学習指導案作成(超)×3 入門」レッスン⑩、及び「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」第5章第1節及び第2節を参照
学習活動について	多様な学習活動についてもっと知りたい。	「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」第4章第2の3を参照
	<p>話し合い活動について</p> <p>① 発言する児童が少ない。決まった児童しか発言しない。</p> <p>② 話し合いが広がらない、深まらない。</p>	<p>それには様々な原因が考えられる。</p> <p>「疑似体験がないから教材の内容が分からない」「発問が理解できない」「考える時間が少ない」「考えるのが面倒くさい」「道徳の学習がつまらない」「自分の考えに自信がない」「笑われると恥ずかしい」「後でとやかく言われるのが怖い」などなど、原因を把握し、それらを取り除いていけば、次第に発言は多くなっていく。</p> <p>「道徳」に限らず、効果的な話し合い活動には学習訓練が不可欠である。</p> <p>(ex) 先生に話すのではなく皆に話す。人の話は耳と目と心で聴く。話し上手より聴き上手になる。人の話にはリアクションをする。黙って挙手し、指名されたら「はい」と返事をしてから話す、など。</p>
学習意欲の喚起について	児童を引き込む授業がしたいが、イマイチ乗りがよくない…	これについても様々な原因が考えられる。「体験がないので教材の内容(意味)が実感として理解できない」「教材が児童の発達の段階や興味・関心に合っていない」「ずさんな教材提示」「お座なりな導入」「つまらない発問(分かりきったことを考えるなど)」など。

以上